

# 親和会会報

白坊隆書

24号  
2010.5



## 第158回親和会報告

第158回親和会運営幹事代表  
生産技術研究所教授

藤岡 洋 (昭和59卒)

10月17日、土曜日16時、一年間首を長くして待った親和会が100名以上の参加者を集めて盛大に開催されました。近年は学外のホテルで開催されることが多かったようですが、今回は、久しぶりに本郷キャンパス山上会館での開催となりました。開場前、早めに到着した会員が安田講堂や三四郎池など山上会館の周りを懐かしそうに散策する姿もみられ、本郷での開催は概ね好評であったように思います。

総会は故溝部裕司事務局長からの活動報告など10分程で淡々と終了し、加治久嗣会長からの開会の辞でお待ちかねの懇親会に突入しました。かつては、歓談の途中で化学・生命系三専攻の現在の様子を現役の教員が紹介するこ



加治会長開会の挨拶

ともありましたが、今年にはプロのジャグラー「ハードパンチャー」のすけ」氏によるパフォーマンスを皆で楽しみました。しんのすけ氏は東大の教養学部で化学を専攻した異色の経歴の持ち主ですが、化学の専門家集団の前で緊張したのかミスを連発、何度も土下座して謝る姿が面白い笑いを誘っていました。懐かしい顔ぶれとの楽しい歓談の間はあっという間に過ぎ、気がつくとも北澤宏一副会長の閉会の辞の時間となっていました。副会長からは、研究者・技術者が頑張れば日本はまだ一流国としてやっていけると元氣のお話を頂き、皆勇気づけられました。閉会後も暫くは別れを惜しむ会員たちが会場のあちらこちらで、来年の再会を誓い合っていました。我々、幹事年に当たるグループは場所を移して2次会を開き、秋の



乾杯の音頭を取られる西郷理事



今回幹事の皆さん



次回幹事の皆さん

夜長を夜遅くまで、旧交を温めることができました。

最後になりましたが、この第158回親和会の開催に関して事務局長として指揮をとっていただいた溝部先生のご冥福をこの場を借りて心よりお祈り申し上げます。



## 第159回

## 親和会のお知らせ!

日 時:平成22年11月23日(火、祝日)  
16:00~18:00  
場 所:東京大学 山上会館 地階 御殿  
企 画:現在検討中  
運営幹事:昭和60年卒・平成7年卒

ご予約おき下さいますようお願い致します。

## 溝部裕司前親和会事務局長 逝去のお知らせ



溝部裕司親和会前事務局長におかれましては、去る3月11日急逝されました。親和会理事一同、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 溝部先生を偲んで

親和会会長 加治 久継

溝部先生の御霊に、心より哀悼の辞をささげます。

突然の訃報を、いまだに信じられない思いであります。今年の2月に、親和会室でお会いした時には、少しお顔の色がよくないという感じはしましたが、きっと年度末を控えお忙しいからだろう、と軽く考えておりました。あの時、もう少し気遣いして差し上げればよかったかと、今にして悔やまれます。

先生は、有機金属化合物の分野において革新的なご研究を続けておられました。ご講演を拝聴する機会を得たことがあり

ますが、安価で、エネルギー効率の高い工業製品の製造プロセスにつながるご研究、と感じておりました。資源の乏しい日本にとりまして、技術立国は国是ともいべきもので、先生のご研究はそうした意味でも大きな意義のあるものでした。ぜひご遺志を受けて、ご研究が発展的に継承されるよう願っております。

当親和会にとりまして、先生が精力的に進められてきたいくつかの改革案が軌道に乗り始めたところでもあり、羅針盤かつエンジン役の先生を失い、戸惑いもありました。幸い尾嶋先生が直ちに溝部先生の後任をお引き受けくださいました。今後は尾嶋先生を中心に、溝部先生の進められてきた改革に向かって再出発し、会員の皆様のご期待に沿えるよう努力を重ねることを、先生の御霊にお誓い申し上げます。

最後になりますが、ご家族様ができるだけ早く立ち直られ、先生が草葉の陰で安心されますよう心から祈念いたします。

合掌

### 追悼

元事務局長 西郷 和彦

溝部前事務局長ご逝去の報に接し、唯々驚くと共に胸の詰まる思いです。

先生は、親和会の方向を決定する重要な場面でいつも冷静沈着に振る舞われ、それらのことを通して私は多くのことを学ぶことが出来ました。親和会を充実す

るべきこの時期に欠かせない見識と行動力をお持ちでした。まさに、ご努力の結果が芽を出そうというこの時期のご急逝は、ご本人もさぞや無念な思いであったことでしょう。

残った者として、残された芽を大輪の花に育て、さらには新たな芽を育てていくことが、先生への何よりのご供養になると思います。会員の皆様には、是非ご協力をお願い致します。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

### 溝部裕司先生の ご逝去を悼んで

親和会事務局長 尾嶋 正治

去る3月11日、溝部裕司先生が56歳という若さで急逝されました。実は1週間前に5号館の廊下でお会いして声を交わしたばかりだったので、訃報に接して大変驚いた次第です。溝部先生は親和会事務局長を西郷先生から引き継いで立派に務めておられ、毎年の親和会総会を盛大に運営されていた手腕に敬服しております。親和会にとっても大きな痛手で、急遽、理事を務めていた私に事務局長代行の要請が参りましたので、二つ返事でお引き受けした次第です。3月25日に急遽加治会長、西郷前事務局長、近藤さんと一緒に今後の進め方を相談いたしました。

私が東大に着任した当時、溝部先生は

## 会費の納期と金額変更!

先の理事会に於きまして、会費の納期と金額の変更が次のように決定されました。

会費：4千円 ⇨ 2千円  
納期：2年に1度 ⇨ 毎年

会員の皆様には是非会費納入にご協力下さいますようお願い致します。

## 総会報告

《平成21年度会計報告》

平成20年度繰越金	6,022,908
年会費	101,440
利息	1,603
寄付	21,760
第157回親和会余剰金	374,045
合計	6,521,756
会報印刷費	502,421
通信費	779,957
親和会組織化費	94,000
大学院親和会支援費	98,700
事務局運営費	1,818,243
合計	3,293,321
繰越金	3,228,435

お隣さんである干鯛研究室の助教を務めておられ、よく顔を合わせていました。ダンディーで真面目そうで、しかししたたかな一面も含んだ独特の(？)ニヒルな笑いは印象的でした。しばらくすると生研の教授として栄転されました。研究分野はかなり違っていました。活躍している様子は私にも聞こえてきました。56歳という若さでのご逝去は我々にとっても本当に残念ですが、溝部先生の御遺志を継いで、親和会を盛り上げていきたいと考えています。

## 溝部君追悼文

昭和51年工業化学科卒 織作 正美

君と最初に出会ったのは36年前、大学3年の初夏、51番教室。君は入学前から応用化学への進学を決めていて、成績も一番の秀才だった。最初の出会いは数学演習での些細な口論だったが、すぐに親友になった。生涯変わらぬ無二の親友に意志の強い君だったが、東京育ちの私には少し脆いという印象であった。駒場からの別の友人味岡君の話によれば、入学時は全く酒が飲めなかったのが仲間による「訓練」の結果、毎晩かなりの量を飲む君になったのだという。同じ研究室へ進んで、一緒にドクターを取ろうと言われた時は軽くイエスと言ってしまったが、後から大変な約束をしてしまったと反省した。不思議な事に二人の選択は同じ当

時の内田研であり、そこで講師になられたばかりの干鯛先生と出会った。

干鯛さんはすぐに君の実力を認め、本業の「空素錯体」の研究に当たられた。当時のこの分野の文献は500件程であり、君は直ぐにすべてを読破して斯界の若き研究者となった。干鯛さんがイギリスに行かれてからは一人で研究を進め、すぐに論文を書き始めた。私の最初の論文より2年以上早かった。毎日研究室に通い、昼食も一緒だった。博士終了までの6年間、家族・兄弟より長く一緒に居た。今まで秘密だったが、君が吐血した事もあった。私生活の区別がつかないほど一緒だった。M2の時私の母が死んで、就職しようかと思うと打ち明けたら、絶対許さない、ドクターまで一緒に約束しただろうと迫られ、苦しい3年間をまた共に過ごす事になった。

博士3年の春、干鯛先生と君と沼津に遊んだ。助手になって大学に残れるのは一人、二人で相談して決めると言われ、暫く二人で譲り合った。でも最初から答えは決まっていた。そもそも私は君に勧められてここに居るのであり、君は東大に残って研究を続けるためにここに居る。「お前が残り。これで議論は終わりだ。」そう宣言し、道は決まった。その後



親和会総会での溝部前事務局長

学位を頂き、君はハーバードへと旅立った。

博士3年の時、君の下で共同研究者になったのが、後の私の妻となる女性である。ハーバードから戻った時、私たちの新居に遊びに来てくれた。海で泳ぎ、山のように新潟の酒と海の幸を楽しんでもらった。もちろん我が妻が心をこめて料理した。その後妻は大学院に復学し、博士号取得まで君の共同研究者であった。大師匠の故内田先生がいつも「溝部はいなせだ。」と誉めて居られたが、最後まで恰好の好い君であった。いつか再会しよう。それまで暫くのお別れだ。

## 惜別の春

西郷	和彦教授	定年退職 高知工科大学環境工学群教授
中嶋	隆人准教授	理化学研究所
舟橋	正浩准教授	香川工科大学系研究科教授
石田	康博講師	理化学研究所チームリーダー
赤松	憲樹助教	工学院大学工学部助教
伊藤	宏助教	大阪市立大学理学研究科特任講師
内田	さやか助教	総合文化研究科広域科学専攻准教授
中村	恒夫助教	産総研計算化学部門
堀井	滋助教	高知工科大学環境理工学群准教授
松野	寿生助教	転出
安田	琢磨助教	九州工科大学研究特任准教授
大澤	利男技術職員	定年退職 再雇用
福田	政一技術職員	定年退職 再雇用

## 平成22年度版名簿発行 是非ご予約下さい！

発行予定：平成22年8月

予約価格：4,000円(通常価格：4,500円)

同封の振込用紙が予約申込書を兼ねています。  
予約ご希望の方は6月30日(水)までに振込みをお願いします。

☆平成22年度版名簿の掲載項目

氏名、自宅住所、自宅電話番号、自宅FAX番号、自宅e-mailアドレス、勤務先、勤務先電話番号、勤務先FAX番号、勤務先e-mailアドレス

☆各項目の内容の加筆訂正部分を訂正用紙にてお知らせ下さい。

☆掲載無用の項目についても同様に訂正用紙にてお知らせ下さい。

親和会ホームページを更新しました！

是非、ご覧下さい。

HPアドレス

<http://www.chem.t.u-tokyo.ac.jp/shinna>

# 温故知新

## 新しい価値観の創造

吉田 邦夫（平成10年退官）



昨秋、ヘルシンキで開かれたセミナーでお世話になった政府・大学の方々6名と夕食をともにする機会があった。歓談する中に、この方々全員が島とヨットを所有していること、夕刻4時には仕事を終えてサウナで汗を流す毎日であること、そのサウナも自作であること、週末は島で鹿狩りを楽しむことなどがわかり、私達は声を失った。日本の皆さんはどのような生活をされているのですか、と尋ねられて答えようもない状況に置かれた。

過去20年間、「自由、民主主義、市場経済」を3点セットとする米国の価値観が世界中を席巻してきた。フリードマンは『フラット化する世界』で中国やインドがグローバル競争力を強め、先進国の労働者から職を奪っていく展開をフラット化と称した。この結果、先進国では雇用確保が最優先となり、フラット化は国内の垂直化、すなわち格差の拡大を進行

させるという皮肉な現象を生み出した。労働者は正規労働者と非正規労働者に分かれ、さらに外国人労働者と労働したくても雇用機会が得られない労働難民へと分極化し、対峙して荒んでいる。『蟹工船』がベストセラーになったのも無理が無い。

定年後に、タイ国の教育改善事業に携わる機会を得て、バンコックで4年近く生活をした。同国の1人あたりのGDPは日本の10分の1以下に留まる。しかし人々の顔は幸福感に溢れ、物価も安く天国に居る感があった。時間を気にしない社会、流行を追わない社会、そして競争のない社会は、私達が憧れてきた欧米とは明らかに異なる価値観が支配する。

私達の世代は、「パパは何でも知っている」や「ルート66」などのテレビ番組で、電化製品の完備した生活、オープンカーでハイウエーを疾駆する生活に圧倒され、少しでも追いつきたいと馬車馬のように働いてきた。そして実質はともかく所得額で欧米に追いつくこととなった。この発展により「奇跡の日本」と持て囃されて、アジアの途上国に夢を与えた時期もあった。しかし、大成功したが故に、それを築き上げた産業、政治、社会システムに安住して自己革新のエネルギーを失い、苦しんでいる。

日本は福祉政策の充実や自然エネルギーの積極的利用などの社会資本投資により「持続可能な成長」を実現することが必要である。そのための新たな価値観

を生み出していかねばならない。真のグローバル化とは、国や宗教などの枠を越して人々が宇宙船地球号の一員であることの意識を共有することである。日本がアジアの価値観も理解できる国として、世界が共感できるビジョンを提示する国となって欲しいものである。

忍び寄る環境破壊を警告した『沈黙の春』で有名なレイチェル・カーソンは、『センス・オブ・ワンダー』の中で、「地球の美しさと神秘を感じ取る人は、科学者であろうと無かるうと、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることは決してないでしょう。たとえ生活の中で苦しみや心配事に出会ったとしても、必ず内面的な満足感と生きていることへの喜びへ通ずる小道を見つげられると信じます」と含みある文章を書き遺している。私達の世代のみならず若い人々も芸術や読書に喜びを見出し、スポーツなどをコミュニティ全体で楽しむ生活に価値を感じられるようになることが重要である。さもなければ、「豊かさの中の貧困」がはびこる今日、日本で若者が豊かさを実感できなくなれば、「貧困」感のみが残ることになってしまうであろう。



## 事務局のご案内

〒113-8656  
東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学工学部5号館内  
TEL/FAX: 03-5841-7400  
E-Mail: shinna@chem.t.u-tokyo.ac.jp

事務担当者 近藤 檀（月・金）

## 編集後記

3月中旬に溝部事務局長の急逝という大変悲しいニュースに接しました。この緊急事態を乗り越えるため、ということでも急遽加治会長から事務局長代行を仰せつかりました。しかもこの3月末には、これまで親和会を強力に支えて頂いた西郷元事務局長が定年退職され、高知に移られましたので、新米事務局長としてはまことに心細い状況でした。しかし、みなさんのご支援のおかげで、5月8日に親和会理事会を開くことが出来、次期会長、副会長候補を決めるとともに、若手の理事を増やすことも決めました。また、大久保理事（昭和58年化工卒）には事務局長の補佐をお願いすることにしました。第159回親和会総会は11月23日に開催することも決まり、現在8名の幹事（昭和60年卒、平成7年卒）がいろんな趣向を凝らした企画を考えてくれています。是非、総会にはたくさんの方にご参加頂きますよう、よろしくお願いたします。（記/尾嶋）